

## 諏訪湖のこれまで（ナレーション）

- ① これから、この地域のシンボル「諏訪湖」のこれまでを振り返りたいと思いますが、初めて来られたという方もおられますので、簡単に諏訪湖の概要を説明させていただきます。
- ② 諏訪湖は長野県のほぼ中央にある湖です。県歌「信濃の国」でも「諏訪の湖（うみ）には魚（うお）多し」と歌われているように、昔からこの地域で暮らす人々に親しまれ、多くの恵みを与えてくれる存在でした。意外と知られていないと思いますが、琵琶湖周航の歌を作詞した小口太郎は岡谷市で生まれ、諏訪湖の周りで成長しました。琵琶湖周航の歌は故郷である諏訪湖を思いながら書いた詩だといわれています。このように慕情を誘う、ふるさとの象徴でもありました。
- ③ 湖岸線は約 16 キロ、面積は 13.3 平方キロという県内最大の湖です。流入河川は 31 河川、流出河川は 1 河川で、流出する 1 河川こそが天竜川です。湖が源流という河川はめずらしいのですが、全国第 9 位の長さを誇る天竜川の源は諏訪湖ということになるのです。
- ④ それでは、ここから諏訪湖のこれまでを振り返ってみたいと思います。かつての諏訪湖は、住民の憩いの場であり、生活の場。
- ⑤ 大人にとっても、子供にとっても、大切な場所でした。
- ⑥ 今では考えられないかもしれませんが、人々は湖水浴を楽しみ、
- ⑦ 水辺で釣りを楽しみ、
- ⑧ 冬には氷上でスケートをする人々や、氷を割って行うヤツカ漁などがみられました。
- ⑨ しかし、幾多の氾濫を繰り返した諏訪湖の周りには、昭和 40 年代から治水のためにコンクリート波返し護岸が整備されるようになり、水辺が遠くなっていきました。
- ⑩ 親水性は損なわれ、
- ⑪ 遊覧船乗り場のまわりもこのような状況で、観光地らしからぬ姿となりました。
- ⑫ 水質も悪化し、
- ⑬ 水は緑色になって、透明度も落ちていきました。
- ⑭ アオコは湖面まで盛り上がり、異臭が漂うなど、諏訪湖の環境はどんどん悪化。
- ⑮ 湖面にはごみが漂い、
- ⑯ 護岸にも多くのゴミがたまり、
- ⑰ いつしか、人々は諏訪湖から遠のき、近寄りがたい存在になっていったのです。
- ⑱ このままではいけない。住民は立ち上がりました。まずは、自分たちにできることをやろう。諏訪湖のまわりで、団体や企業、学校などが湖岸清掃を始めました。
- ⑲ しかし、それは容易なことではありませんでした。打ち寄せられたごみを懸命に集め、何度も何度も、護岸の上にバケツリレーをしたり、
- ⑳ 熊手で湖面に漂うごみをかき寄せたりと、大変な努力をしながらごみを回収していきました。
- 21 そして、大人だけではなく、こども達も一緒になり、諏訪湖のために、必死にごみを拾ったのです。
- 22 もちろん、行政も努力しました。下水道の整備などにより水質は徐々に改善、
- 23 水辺もコンクリート波返し護岸から人工渚に移り変わり、人々も諏訪湖に近づけるようになりました。
- 24 ボートや湖周でのマラソン、ウォーキングを楽しむ人も増えてきました。
- 25 花火見物や、花を愛でながら散策する人も多くなってきました。
- 26 以前の姿を知らない子供たちに「諏訪湖のことをどう思いますか？」と質問すると「汚い、臭い」という声が多く聞かれます。しかし、今の姿をとり戻すまでに、長い年月がかかり、涙ぐましい努力がありました。少しずつ昔の姿を取り戻してきた諏訪湖。私たちはこれからも努力を続け、受け継いでよかったと思われる諏訪湖を、次の世代に伝えていきたいと思います。